

第8章 中国の公共図書館

1. 公共図書館の位置付けと機能

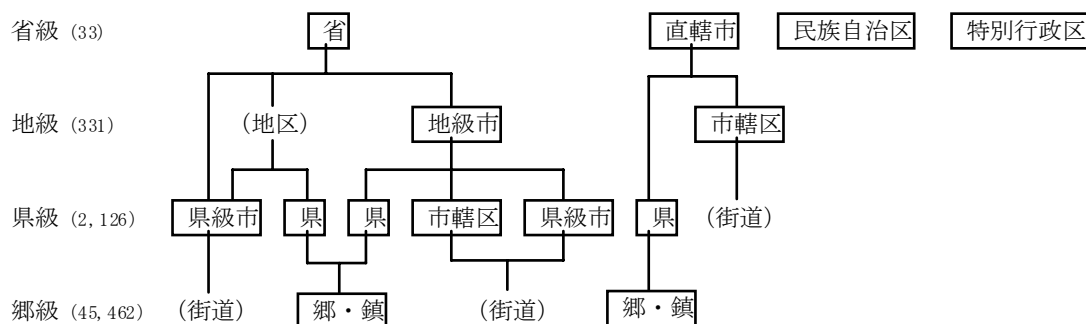
1. 地方制度と公共図書館の法的・制度的な位置付け

(1) 国と地方の関係、地方自治制度(州・県・市町村等)について

中国の国家機構は、国家権力機関である「全国人民代表大会」（日本の国会に当たる）、行政機関である「国务院（中央人民政府）」、司法機関である「最高人民法院」、検察機関である「最高人民検察院」、中央国家元首に当たる「国家主席」、そして軍機関である「国家中央軍事委員会（実態は中国共産党中央軍事委員会と同一）」からなり、前4者については、それぞれが法律上の地位と管轄範囲に基づいて中央機構と地方機構に分かれるという構造になっている（憲法第57条、第81条、第85条、第93条、第123条、第129条）。

そして、現代中国の地方行政は、基本的に省級、地級、県級、郷級の4つのレベルに分けられる（憲法第30条）。

中国の地方行政階層図



注：民族自治区、特別行政区は省略している。

本図は基本図であり、県級市や区にも農村である郷や鎮が存在する。

(a) 省級地方

1999年12月現在、台湾を除く33の省級地方から構成されている。省級地方には、22省の他に、4つの直轄市（北京、天津、上海、重慶）、5の民族自治区（内蒙古、広西壮族、チベット [西藏]、寧夏回族、新疆ウイグル）および2つの特別行政区（香港特別行政区、マカオ特別行政区）がある。

香港、マカオを除けば、権力機関の地方人民代表大会と行政機関である地方人民政府が存在するが、これは以下の各級にも共通している。

(b) 地級地方

省級地方の一級下のレベルである地級地方には、自治州、地級市（市轄区や県を管理できる）、そして直轄市の市轄区がある。

なお、地級市の中には、計画単列都市と呼ばれているものがあり、1999年現在、瀋陽、長春、ハルビン、大連、杭州、青島、済南、合肥、南京、南昌、福州、寧波、厦門、武漢の14都市が存在する。計画単列

都市という名称は、経済および社会発展の諸項目について省の計画から独立し、単独で全国計画に編入されることに由来している。計画単列都市は経済管理上、省級地方に相当する権限を有し、全国的な会議に省級地方と並んで参加している（1998年末現在、以下同じ）。

(c) 県級地方

地区級の一級下の県級地方は、県（内蒙古自治区の旗を含む）、自治県（内蒙古自治区の自治旗を含む）、県級市（市轄区や県を管理しない）、地級市の市轄区などから成る。

(d) 郷級地方

農村地域における末端の地方である郷級地方には、郷、民族郷、鎮がある。

*民族自治区域

各少数民族が集中して居住している区域は、民族自治区域として区域自治を実行し、自治機関を設置し、自治権を行使することとされている。そして各民族自治区域は、中華人民共和国の分離できない部分だと明確に謳われている。

民族自治区域は、省級の自治区、地級の自治州、県級の自治県（内蒙古の自治旗を含む）に区分される。

なお、民族郷は民族自治区域ではないが、少数民族に対して一定の配慮がなされる（憲法第4条3、第30条3、憲法第99条3）。



(2) 地方制度の段階(層構造)と、公共図書館のネットワークについて

現在、中国の公共図書館は、例えば市の図書館は市の文化管理部門の所管、区の図書館は区の文化管理部と
いうようにそれぞれが独立しており、それぞれは支援・指導という役割でのみ関係を持っている。

生活水準の向上にともない、人びとの知識や読書に対する要求も常に向上する。特に 1980 年代以降、各自治体は基礎となる図書館の建設が地域文化発展の一環であるとして、地域図書館(室)の発展を強力に押し進め、図書館を中心とする地域学習型ネットワークが形成されつつある。

多くの地域が公共図書館の地域ネットワークの建設を重視しており、図書館ネットワークは地域にまで拡大されつつある。1998 年末をみると、北京市の県以上の公共図書館は 23 館、街道・郷鎮図書館は 421 館である。現在、上海では市クラスの図書館が 2 館、県クラスの図書館が 33 館、街道・郷鎮図書館が 316 館あり、3 万 7 千人に 1 つの図書館があることになる。蔵書冊数も 1 人あたり 3.7 冊であり、全国でトップクラスである。上海市では市、区(県)、街道(郷鎮)の 3 クラスの公共図書館ネットワークを基盤に、第 4 クラスの里弄(村)図書室を発展させようとしている。現在までに里弄(村)図書室は 3,200 室以上あり、中国全市にある里弄(村)図書室の 55% を占めている。

国立中央図書館である北京国家図書館は、国家文化部に所属するが、地域の公共図書館と直接関係はない。

(3) 公共図書館の設置・運営に関する関連法令の体系と設置運営主体について

公共図書館の業務に関するものでは、「図書館事業の強化に関する文化部の指示」が 1955 年 7 月に頒布された。同指示には「公共図書館は人民に対し愛国主義と社会主義教育の文化的事業を推進する機構として、中国共産党と政府の宣伝教育事業を遂行する有力な手段」として規定し、公共図書館の主要任務について述べている。

全国の図書館事業に関するものでは、「省・自治区・市図書館の工作条例」がある。これは、1978 年に国家文化財事業管理局が作成した「省・自治区・市図書館事業条例」を基礎として制定された。1982 年 12 月文化部が正式に公布し、その後改訂された同条例は 8 章 30 条で構成されており、各図書館の機能と役割について次のように規定している。

- a. マルクス・レーニン主義と毛沢東思想を宣伝し、中国共産党と政府の政策・法令を宣伝し、人民に対し共産主義教育と愛国主義教育を行う。
- b. 当該地域の経済発展と科学研究の向上のための図書・刊行物資料の提供。
- c. 科学文化知識を伝播し広範囲の群衆の科学文化水準を高める。
- d. 文化典籍と地方文献資料の収集・整理・保存。
- e. 図書館学の理論と技術方法を研究し、当該の市・県図書館に対する業務指導の実施。
- f. 省(自治区・市)政府関連機関の指導のもとで当該地区の各級図書館間の協力推進。

文物保護法は、1982 年 11 月 19 日第 5 次全国人民代表大会で制定、1991 年 6 月 29 日第 7 次全国人民代表大会で改正された 8 章 33 条で構成された法律で、文化財事業を発展させる法的根拠になると同時に文化遺産の保護に関する有力な措置である。

著作権法は、1990 年 9 月 7 日第 7 次全国人民大会で制定された。この法は著作の帰属問題、およびそれにより生成された権利と義務関係を規定した法律であり、6 章 56 条で構成されている。

設置・運営主体については、(2)に述べたとおり、省・自治区・市・県がそれぞれの公共図書館を所管しているが、公共図書館振興政策の立案や運営費の支出は、すべて国家文化部である((14)参照のこと)。公共図書館の設置主体は政府であって、日本と異なり、地方自治体が行うことはできない。

(4) 公共図書館に対する国家レベルの体制と方針について

国レベルの公共図書館振興を担当し、政策を立案したり、補助金を出したりしている中央省庁の部署は「中華人民共和国文化部」である。

中国には、現在に到るまで「図書館法」がなかったが、近年、公共図書館振興の原動力となっているのは、中華人民共和国文化部によって「図書館法」制定の基盤が形成され、その公布も近いという段階を迎えたこと

である。中国図書館史の中で画期的な「図書館法」の成立施行によって、中国の公共図書館は全面的に発展することが期待され、今後、高等教育における図書館専攻課程の普及、また司書資格制度の創設も考えられる。

2. 公共図書館の数

(5) 地方自治制度の段階別の公共図書館数（分館・サービス拠点を含む）について

1949年10月時点では、全国の各種図書館は392館で、このうち公共図書館はわずか55館であった。1978年には全国の県クラス以上の公共図書館は1,218館に達し、1980年には2,512館となった。1990年代に入ってから公共図書館は発展を続け、1996年末には2,631館に増加した。全国の80%以上の県（区）で図書館が設立されたことになる。また、1999年には2,767館にまで増加し、2000年には2,769館（そのうち県クラスが2,330館）にまで増加した。現在では全国の86%の県に図書館がある。

(6) 地方自治制度の段階別の公共図書館設置率について

中国発行の学術雑誌『図書館雑誌』（上海市図書館学会機関誌）、『図書情報工作』（中国科学院文献情報センター）およびインターネットサーチエンジン（<http://www.google.com/intl/zh-CN/>）なども利用したが、これに関するデータは得られなかった（以下データが得られない場合は同様の文献等を検索した結果である）。

(7) 複数の自治体にまたがる図書館ネットワーク、コンソーシアム等について

文化部の「九五計画」で提示した目標によると、2000年までに全国の省クラスの図書館、市クラスの図書館、40%の県クラスの図書館が自動化運営を実現し、第1段階として「中国図書館情報ネットワーク」（CLINET）、即ち「金図プロジェクト」を設立するとなっている。また2000年までに市クラス以上の図書館は基本的にインターネットに接続し、県クラス図書館も30%以上が接続するとした。北京、天津、上海、珠江三角洲、長江三角洲で先行して実施し、自動化を省・市図書館のコンピュータ・ネットワーク構築に発展させる。中国文化部による「文化発展の目標」によると、「2010年までに県クラス以上の図書館間にオンライン・ネットワークを実現する」とある。

東部の発達地域では図書館のネットワーク化が進んでいる。上海図書館は1996年からHorizonシステム、浙江図書館はInnopacシステムを導入している。深セン市図書館が開発したILASシステムは何度かのバージョンアップを経て、そのネットワーク版がすでに全国各地の大規模・中規模図書館で応用されている。

公共図書館ネットワーク化とデジタル化については、広東省が比較的早くに着手し、発展も速かった。一つには、広東省はネット利用者が100万人を越え、全国でも2位という優れたネットワーク環境が整っていたことによる。もう一つは、広東省が公共図書館のネットワーク化を重視していることによる。すでに14の市クラス以上の公共図書館がネットワークに接続していたため、第1段階で省内公共図書館の全面的自動化ネットワークが実現し、「ネット図書館」（<http://61.140.225.11/>）（2001.6.22 アクセス開始）を開設した。目次には新刊書の速報、広東版図書巡礼、孫中山全文庫、海洋経済文献、図書検索エンジン、電子情報ガイドなどがある。

市クラス公共図書館では、北京市西城区図書館のデジタル化が最も際立っている。西城区図書館は2000年に建てられた新館で、北京市でも最も高度にインテリジェント化、ネットワーク化、近代化された図書館である。建築面積は1万平方メートル以上、蔵書33万冊で、1,000人以上が閲覧できる。ここでは1階ホールに、いくつかのスクリーンを組み合わせで放映できるテレビスクリーンがあり、利用者にコンピュータ制作に関する情報を提供している。

3. 公共図書館サービスの基本理念、原則について

(8) 図書館に対する一般国民の意識、公共的な文化施設としての認識の状況

これについてのデータは得られなかった。

(9) 公共図書館サービスの基本理念、一般原則について

文化部が1982年12月正式に公布した中国の図書館法の性格をもつ、「図書館工作条例」の第2条は省（自治区、市）図書館の主要任務6つを明示し、その第1に「マルクス・レーニン主義と毛沢東思想を宣伝し、中国共産党と政府の政策・法令を宣伝し、人民に共産主義と愛国主義教育を施行する」と明記している。また中国における図書館関連の学会と協会の性格をもつ中国図書館学会の中国図書館学会章程（規程）の第2条には「中国共産党の理念を根拠とし、党の[百花斉放、百家争鳴]の方針を貫徹…」としている。

1987年に改訂された大学図書館規程である「普通高等学校図書館規程」第2条にも「大学図書館は共産党と国家の高等教育方針、政策と法令を貫徹し、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想と人類科学文化の優れた成果を宣伝し…」と述べられている。

またマルクス・レーニン主義や毛沢東思想は中国の各種図書館で採択している「中国図書資料分類法」の総記に含まれ、北京大学図書館情報学科の教育課程の必修科目となっている。

図書館の管理の面でも、例えば上海図書館には図書館長と同地位であって、事実上の序列では上位に共産党委員会書記がおり、図書館情報学の教育においても、例えば北京大学の教授陣に党委員会の書記がいる。このように図書館サービスの目的は共産主義思想を宣伝するためであり、マルクス・レーニンおよび毛沢東思想と著作を分類の最上位におく分類体系、図書館管理運営に共産党委員会の参加などからみるとマルクス・レーニン主義や毛沢東思想は中国のあらゆる社会制度の基盤であり、中国の図書館および図書館情報サービスの思想的基盤である。さらには中国の図書館情報政策および制度の基盤であり、国家の政策目標と方向に直結している。

図書館運営にかかわる方針としては、「公的運営」「人本位」「公開」「閉架式或は半開架式」が原則とされている。

(10) 著作権の保護、図書館の公共貸与権、出版社への保障などについて

これに関するデータは得られなかった。

(11) 貸出開始時期を遅らせるなどの著作者への配慮について

こうした配慮についての所見は見つからなかった。

(12) 個々の公共図書館の使命（ミッション・ステートメント）について

個々の公共図書館の使命については、ウェブサイトなどで公表されている。そのなかに、地域社会の情報の収集・保存に責任をもつ、住民の情報ニーズに応えるといったことが、明記されている。

(13) 地域社会の情報ニーズの定期的な調査などについて

地域社会の情報ニーズをとらえるため、アンケート調査、意見箱設置などが行なわれている。定期的な調査も行なわれているが、年間でどれぐらいの頻度で定期的な調査を行なわれているかは、それぞれの図書館によって異なる。

2. 公共図書館の運営・経営の体制

1. 設立主体と運営主体の状況と管理運営・経営の責任体制と経費負担

(14) 公共図書館の整備や運営費の負担について

中国の公共図書館は、全て政府による補助金で運営する。

(15) 図書館の建設整備にPFIなど、民間資金活用の試みについて

これに関するデータは得られなかった。

(16) 公共図書館の運営を民間に委託することについて

公共図書館の運営を全部民間に委託するようなことは、行なわれていない。

(17) 各段階の公共図書館の経営・運営の責任者について

公共図書館の経営・運営の責任者は館長であり、監督者も館長である。

(18) 館長の経営手腕を評価するシステム、監督者が重視する評価項目について

これに関するデータは得られなかった。

2. 図書館運営に関する年間経費の総額と資金負担の状況**(19) 各段階の公共図書館年間予算総額と、1館当りの平均年間予算額について**

1999年データであるが、年間経費の総額は117,290万元となっている。当時の公共図書館数を2,767館として算出すると、1館当り42.4万元である。

公共図書館の年間総経費の推移

(単位：万元)

年次	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年
年間総経費	19,070	20,608	23,909	27,257	29,296	32,593	39,010
年次	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
年間総経費	42,975	60,639	65,829	78,138	94,945	108,946	117,290

(20) 自治体の負担額と広域自治体、政府の補助金、民間の寄付の額や比率について

「WTO 加入後わが国の図書館情報プロジェクトが直面するチャンスと挑戦」(王毅)によると、公共図書館は、ほぼ全額政府の支給で運営されている。

(<http://www.lib.sjtu.edu.cn/chinese/teaching&research/406.html>)

(21) 人件費・図書購入費・建物設備維持費の3つの年間支出の割合について

(19)とは出典が異なるが、1994年データで全国県クラス以上の公共図書館の総経費は63,295万元であり、このうち人件費は45.6%を占めている。推移をみると、総経費が増加しているとはいえ、人件費の割合も1991年は32.3%、1993年には37.3%と徐々に増加している。

県クラス以上公共図書館における人件費の推移 (単位：万元)

区分	人件費	人件費割合	総経費
1991年	11,109.2	32.3%	34,388
1993年	17,974.8	37.3%	48,211
1994年	28,860.0	45.6%	63,295

一方、図書購入費については、全国の公共図書館についての統計データがある。先に述べた人件費とは異なり、図書購入費の総経費に占める割合はこの15年間30%弱で推移し、ほとんど変化はない。金額としては、10年前に比べて、総経費も図書購入費も4倍に増加している。

なお、建物設備維持費については不明である。

図書購入費の推移 (単位：万元)

区分	図書購入費	図書購入費割合	総経費
1986年	5,300	27.8%	19,070
1987年	5,953	28.9%	20,608
1988年	6,560	27.4%	23,909
1989年	7,702	28.3%	27,257
1990年	8,474	28.9%	29,296
1991年	8,927	27.4%	32,593
1992年	9,916	25.4%	39,010
1993年	10,698	24.9%	42,975
1994年	9,252	15.3%	60,639
1995年	16,788	25.5%	65,829
1996年	19,326	24.7%	78,138
1997年	25,527	26.9%	94,945
1998年	28,067	25.8%	108,946
1999年	30,473	26.0%	117,290
2000年	37,000	—	—

3. 図書館サービスについて

1. 利用者数と開館時間

(22) 公共図書館の年間利用者総数について

2000年の公共図書館の年間利用者総数は1.89億人（全国の総人口の15%）で、1館当たり68,300人となっている。登録者数のわかるのは1998年のみであり、582万人（1館当たり2,100人）となっている。なお、この年の利用者総数は1.7億人（1館当たり61,400人）であった。

公共図書館の年間利用者数の推移 (単位：万人)

年次	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年
利用者総数	11,722	11,589	11,571	11,900	12,435	20,496	18,495	16,973
年次	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	
利用者総数	14,451	18,298	14,856	16,114	17,058	18,040	18,900	

また、「九・五期間」（1996年～2000年）で公共図書館の利用者総数は8.5億人、「八・五期間」（1991年～1995年）より691万人増加したというデータがある。

(23) 図書館のサービスエリアの人口に占める割合（利用者登録率）について

1998年に登録者数は582万人であるから、利用者登録率は全国総人口の0.47%である。

(24) 利用者の年齢・性別・利用目的などの内訳について

図書館利用は、通常、学生の夏休み期間7、8月がもっともさかんで、夏休みが終わる9月から利用者数が減っていく。利用者のほとんどが年配の人、あるいは資料を調べる学者及び研究者である。

(25) 夜間開館および開館時間数について

開館時間は通常、サラリーマンの勤務時間と同じである。即ち、午前8時30分～午後5時あるいは6時までである（土日曜日も同じ）。上海図書館は新館の開館にあたって、「365日、毎日開館」というスローガンを打ち出した。「上海市公共図書館管理規則」第26条によると、市図書館は週70時間以上、市と区（県）図書館は毎日（祝日を含む）開館しなければならない。上海図書館の実際の開館時間は70時間をはるかに超え、

祝日も開館している。現在、全国では、週 70 時間以上開館したり、祝日に開館している省や市の図書館も少なくない。

2. 蔵書数および貸出数

(26) 各段階の公共図書館の蔵書数の規模について

全国の図書館の蔵書数総数は、1999年に3.95億冊で、人口1人あたり0.3冊である。このうち、古典籍は2,774万冊(7.0%)、図書2.7億冊(68.4%)、新聞雑誌5,483万冊(13.9%)、マイクロ製品1,362万点(3.4%)、視聴覚資料89万点(0.2%)、外国語書籍・雑誌2,195冊(0.0%)となっている。

公共図書館蔵書数の推移

(単位：万冊)

年次	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年
蔵書数	26,133	25,083	27,877	28,368	29,064	29,877	30,493
年次	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
蔵書数	30,737	31,683	32,171	33,686	37,549	38,514	39,539

全国の公共図書館の蔵書数については1館当たり128,000冊というデータがある。段階別にみると、省クラスの公共図書館では1.23億冊(点)、1館当りは3,420,000冊(点)である。区・市レベルの公共図書館では1.09億冊(点)で、1館当たり270,000冊(点)であり、県クラスの公共図書館では1.41億冊(点)となっている。県クラスの公共図書館では、6万冊(点)以上の蔵書を有する図書館が99.2%(2,311館)を占める。

(27) 蔵書の内訳について

成人向け、子ども向けといった内訳に関するデータは得られなかった。

(28) 各段階の公共図書館別の蔵書の年間受け入れ冊数について

全国県クラス以上の公共図書館の年間受け入れ冊数は、次の表のとおりである。1999年以降、1,000万冊を割っていることがわかる。1994年には、全国で544館の公共図書館に、図書購入費用がなく、新規に図書購入できなかったことも報告されている。

年間受け入れ冊数の推移

(単位：万冊)

年次	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年
受け入れ冊数	1,343	1,359	1,181	1,052	978	895	771	740	631
年次	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	
受け入れ冊数	556	551	577	680	700	678	692	820	

(29) 各段階の公共図書館別の蔵書廃棄の実態について

廃棄の実態に関するデータは得られなかった。

(30) 各段階の公共図書館別のデータベース保有率、平均保有件数について

これに関するデータは得られなかった。

(31) 書籍・雑誌などの媒体別の年間貸出数について

2000年データで、全国の公共図書館の利用者数は18,900万人(1館当たり68,300人)、帯出(借出)者数は9,600万人(1館当たり34,700人)、図書貸出数は1.69億冊(1館当たり61,000冊)である。

段階別にみると、省クラス図書館の帯出者数は746万人、貸出冊数1,508万冊であり、区・市クラス図書館の帯出者数は3,109万人、貸出冊数5,922万冊であり、県クラス図書館では帯出者数5,673万人、貸出冊数9,266

万冊となっている。

年間貸出数の推移

(単位：万冊)

年次	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年
貸出冊数	16,205	17,306	18,252	18,066	20,242	13,325	12,625	11,685
年次	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	
貸出冊数	11,852	11,814	14,853	15,685	15,422	16,290	16,900	

(32) 映画フィルム、DVD、CD などの媒体別の所蔵・貸出状況について

全国の公共図書館における音楽、映像資料の所蔵・貸出状況のわかるデータは存在しない。

参考に上海図書館について述べると、上海図書館は、1969年にレコード部門を設置して以来、すでにレコード15万枚を所蔵し、国内最大のレコード図書館となった。そこには国際的な珍品も少なくなく、リール式録音記録も2点所蔵している。

さらに、上海図書館は新しい視覚媒体、例えばCD、VCD、LD、DVD、及び国際的にも有名な音楽や演劇、賞を獲得した映画などの収集に力を入れている。新館D区の視聴覚部門に視聴覚室を2室設けて、それぞれ放映室、音楽鑑賞室としている。

3. 図書館の各種サービス

(33) 図書館サービスに関する情報提供の方法について

これに関するデータは具体的には得られなかったが、(34)などを参照されたい。

(34) インターネット等外部からの蔵書の有無、閲覧・貸出状況の確認について

「中国国家図書館」、「上海図書館」など規模の大きい公共図書館は、蔵書の有無・閲覧、貸し出し可能性の有無の確認がインターネットからできる。携帯電話からの確認はできない。

(35) 地域情報の収集の状況について

これに関するデータは得られなかった。

(36) 地域内の大学等の諸機関との連携について

これに関するデータは得られなかった。

(37) 障害者向けの図書館サービスの全国的なシステムや媒体の整備状況について

1998年2月28日の『文匯報』によれば、遼寧省図書館で音声サービス・ネットワークが完成した。これは図書館と省の障害者連合会が1995年に視覚障害者読書サービスセンターを設立したのを受けて始まったもので、音声サービス制作室とネットワークの設置を目的とする。視覚障害者用の資料の不足が深刻な問題となっているが、この種のサービスは中国では初めてである。このネットワークは視覚障害者用の音声資料1,000点を用意し、全国14カ所のネットワーク参加館に発送している。

上海図書館は文化面での障害者サービスを重視し、図書館員と障害者を組にして、現在では5名の図書館員と障害者が組んで、一対一で図書館を自宅へ届けたり、求められた質問へのサービスなどを行っている。さらに上海図書館は、市や区の障害者グループと共同で座談会や報告会を開いて、文化的な障害者援助サービスを展開している。

媒体は、録音テープ、点字本などが整備されている。

(38) 在留外国人の母語に対応した図書の配備状況について

外国人対応は意識されており、実際に外国人向けの図書が配備されている。

(39) 子どもの読書活動の振興や読書指導の状況について

この 20 数年で、少年児童図書館は公共図書館からの独立を続け、専門の少年児童図書館が設置された。現在、全国に県クラス以上の独立した少年児童図書館は 80 館余りある。上海には市クラスの図書館が 1 館、区クラスの図書館が 27 館、街道・郷鎮図書館が 311 館あるが、少年児童閲覧室も 3,200 室ある。今後は政府機能の調整と行政改革の進展に伴って、公共型の少年児童図書館は再び公共図書館の組織に組み込まれ、公共図書館のサービスの一環となる。

公共図書館では子どもに対する読み聞かせ会や読書指導も実施されている。例えば、2004 年 7 月中央政府から各公共図書館に頒布された「未成年者の思想道德育成強化に向けた若干の意見」により、河北省図書館では 2004 年 10 月 20 日から 12 月 10 日の間に、子どもに対する「読み聞かせ会」、読書指導「燕趙（河北）の読書に関する一連の活動」が行なわれた。

(40) その他各種事業（映画会など）の実施状況について

公共図書館のサービスの水準を向上させ、公共図書館の社会的な影響を拡大させる目的で、文化部は 1989 年から毎年 5 月の最終週を図書館サービス宣伝週間と定め、全国的な活動を行っている。年ごとに 1 つのテーマがあり、文化部の社会文化図書館局がテーマを決定する。全国各地の公共図書館はこのテーマをもとに地元や自館の実情を考慮しつつ、展覧会、報告会、座談会、情報発信会、教養講座、業務カウンセリングなど多様な宣伝活動を行っている。

重慶図書館、渝中区図書館、江北区図書館の 3 館は共同して、1996 年から「週末の講座」を始めてから、毎週続け、現在に至るまですでに 8 年になる。8 年来、この館の講座は累計して 500 回を超え、聴衆の数は 15 万人まで上る。講座に参加する専門家、学者、教授、作家、詩人、芸術家などが 400~500 人ぐらい、講座の内容は各方面に関連して、すでに 1 つの比較的固定した熱心に学ぶ市民の群を形成した。新型肺炎の影響の下でも、重慶の「週末の講座」は依然として 49 回も堅持し、聴衆が 1.23 万人も超えた。そして大学、商工業界、刑務所まで伸びた。そして週末の講座の知識のサロンが形成された。

2000 年に全国の公共図書館は読者のサービスために全部で 40,448 回の各種の活動を催し、1,802 万人が参加した。1995 年と比べるとそれぞれ 19,216 回 (90.5%)、888 万人 (93.3%) 増加した。

また、中国の公共図書館は刑務所の服役囚にも精神の糧を提供し、再び人生の目標を見い出して生きる気力をかきたてるため、学習支援体制を組織し、技能訓練を行って、出所の際には社会生活に適応できるよう指導するため、利用者への特別なサービスを行っている。さらに、船や列車の観光客や老人ホームの高齢者を対象に図書の提供を行っている。

4. 図書館職員の状況**1. 職員数、資格制度、研修等****(41) 公共図書館の職員数（専任・兼任・非常勤の別など）について**

全国の公共図書館職員の総数（1999 年末の時点）は 48,792 人であり、1998 年より 479 人が増加している。内訳は、省クラス図書館が 7,169 人で、1998 年より 101 人が増加している。区・市クラスの図書館が 14,455 人で、1998 年より 439 人が増加している。県クラスと県クラス以下の図書館は 25,728 人であり、1998 年に比べて 40 人が増加している。

(42) 司書資格の難易・給与との関係、年間司書資格取得者数と就職者数について

中国の図書館では、まだ図書館員司書資格制度が行われていない。改革開放以来、中国の図書館事業は飛躍

的な発展を遂げたが、厳密に言えば図書館員の専門職制度は未だ形成されていない。図書館労働者とは、管理員、補佐員、館員、副研究員、研究員といった技術職の総称であるが、図書館の専門業務に従事する人が必ずしも司書の専門資格を持っているわけではない。実際には図書館労働者うちの相当数が、大学の卒業証書さえ持っていない。図書館員司書資格制度が行われていないため、各大学の卒業生が各図書館で活躍している。北京大学の図書館学系（1947年に創設し、1987年5月に図書館情報学系に改名して、1992年に信息管理学科に改名した）を例とすると、1987年から1988年は、90%以上の卒業生が図書館に就職できたが、1990年から1992年では、卒業生のたった10%しか図書館には就職できず、さらに1992年から1994年までのデータでは、卒業生の8%しか図書館に就職できなかった。

(43) 公共図書館現職職員の研修プログラムについて

中国文化部では1998年から図書館専門家による図書館員養成の教材を編集し、図書館員の質を高めようとしてきた。

2. ボランティアの登録・活動の状況

(44) 公共図書館で活動しているボランティアについて

ボランティアについての詳細なデータは得られなかったが、参考に上海の場合についての事例を紹介する。

上海市文化局は1998年5月の全国図書館サービス宣伝週間に、上海市全域のボランティア・グループを組織した。5月24日の開幕式で、上海市知識プロジェクト指導グループの指導者は、市、区（県）の公共図書館のボランティア職員に旗を授与した。静安区図書館は、地元の専門家や教授からなるボランティア団体を組織した。この団体は、図書館業務を発展させ、皆で知恵を出しあって活動を進めるために、講座や補助業務などの指導を担当している。

5. 図書館の設備、情報化等の整備状況

1. 各種施設・設備の設置状況

(45) 各種の施設・設備（閲覧室、書庫、児童室、対面朗読室など）の状況について

公共図書館の施設・設備の詳細は不明である。

(46) スロープ、トイレなど、車椅子利用者用の設備の整備状況について

新築または改修した図書館は、関係規定により障害者サービスの設備を整えることが多い。上海図書館新館は、広場の入口から玄関入口まで障害者用に通路を設け、エレベーターで館内を自由に行き来できる構造になっている。更に車椅子2台を用意し、無料で貸出している。この他専用トイレと車椅子利用者用の押しボタンや標識がある。

2. コンピュータの設置・活用状況およびインターネットの活用

(47) コンピュータの設置状況（職員用・利用客用）について

新技術の応用によって図書館業務の内容、方法、手段、サービスのレベルなどは根本的に変化している。1949年～1979年の間図書館業務はほとんど手作業で行われていた。1980年以降、マイクロ技術、AV技術、コンピュータ、ネットワーク、デジタル技術が多くの図書館で応用されている。1991年2月に中国語MARCが国内外で発行され、1999年2月から北京図書館全館のコンピュータ・ネットワーク・システムが正式に利用さ

れ始めた。現在全国 1/3 の県レベル以上の公共図書館はコンピュータ化された。現在、1.8%の利用者は公共の図書館でインターネットを利用する。

(48) インターネットの利用やセキュリティ保持の状況について

90年代に、力のある大・中規模の図書館では館内、地域内の LAN が設けられ、政府もネットワークの構築を重視し、各種のネットワークが徐々に設けられている。1998年にインターネットを通じて検索できる公共図書館と大学図書館は100館以上あり、北京図書館のホームページを通じて100万頁の資料がフルテキストで検索できるようになっている。中国では、1996年からデジタル図書館の研究が始まり、1997年7月から「中国における実験的なデジタル図書館」計画が制定、実施され始めた。

なお、市民の情報アクセサビリティを高めるためのインターネット等の講習指導が行なわれている。

(49) 利用者のパソコン用の電源と情報端末の整備状況について

これに関するデータは得られなかった。

(50) Web-OPAC やデータベースの利用とオンライン・レファレンスの実施について

1999年から中国国家図書館は「中国デジタル図書館プロジェクト」を開始し、このプロジェクトを支援する目的で「中国デジタル図書館有限会社」が成立した。中国の図書館デジタル化は、今まさに加速度的に進行中である。1960年から1970年代、中国のデータベース構築は書誌データベースが中心であった。1980年代中頃になって全文データベースの割合が増え始め、1985年の28%から1996年には50%にまで増加し、書誌データベースは24%にまで落ち込んだ。上海図書館は1949年以降に出版された中国語圖書のカードを1999年6月に廃棄処分し、20世紀の前半50年間に出版された中国語の圖書も基本的にデータベース化した。古籍圖書の機械目録も2001年に完成された。書誌データベースの完成に伴って、中国図書館のネットワーク化の重点はネットワーク資源と全文情報に移行してきた。

全国の各省や市の情報センターは、中国科学技術情報研究所が開発した中国情報システム (ChinaInfo) を通じて、ネット上の情報サービスを行っている。1997年8月の時点でネット上に公開されているデータベースは66件に達する。

現在、中国のトップレベルである「中国国家図書館」(<http://www.nlc.gov.cn/>)、「上海図書館」(<http://www.library.sh.cn/>)などは、Web-OPAC、他館の蔵書検索、プロバイダ提供のデータベース、リンク集等の掲載がある。

またこれらの図書館では、伝統的なレファレンスサービスに加えて、オンライン・レファレンスを実施している。

<参考文献・ウェブサイト>

- ・ 公共図書館面临窘境, (online), available from
<<http://www.hql.online.sh.cn/View/CNContent.asp?CultureNewsID=23624>>
- ・ 吳建中,「中国公共図書館事業の回顧と展望」, (online), available from
<<http://www.library.sh.cn/japanese/watch/list.asp?id=672>>
- ・ 『図書館雑誌』, 上海図書館学会, 2000 年第 7 期
- ・ 2000 年中国人権事業の進展, (online), available from
<<http://www.china.org.cn/ch-book/2000ren/2000ren5.htm>>
- ・ 加入世贸组织对中国文化产业的影响与对策, (online), available from
<<http://www.wtolaw.gov.cn/display/displayInfo.asp?IID=200208101210529083>>
- ・ 中华人民共和国图书馆事业, (online), available from
<<http://cache.baidu.com/c?word=%D6%D0%B9%FA%3B%B9%AB%B9%B2%3B%CD%BC%CA%E9%3B%B9%DD%3B%B7%FE%CE%F1&url=http%3A/www%2Eczlgjvec%2Eedu%2Ecn/teachers/lib/lib/library/ll1%2Ehtm&b=11&user=baidu>>
- ・ 孙宝寅, 出版产业发展需要大师级的出版家, 编辑家, (online), available from
<<http://www.pep.com.cn/200403/ca375182.htm>>
- ・ 『図書情報工作』, 中国科学院文献情報センター, 2004 年 2 月第 2 期
- ・ 李娟华,「共享工程——全国文化信息资源共享工程」, (online), available from
<<http://216.239.57.104/search?q=cache:zUjfSOPUVXIJ:202.114.65.51/fgxx/xxfg/bgxx/lunwen/lijuanhua.htm+%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E5%85%AC%E5%85%B1%E5%9B%BE%E4%B9%A6%E9%A6%86&hl=zh-CN>>
- ・ 中国互联网络发展状况统计报告 (2004/7), (online), available from
<http://216.239.57.104/search?q=cache:4zrkUR6-ID4J:tech.tom.com/img/assets/200407/040720112712cnmic_report14.doc+%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E5%85%AC%E5%85%B1%E5%9B%BE%E4%B9%A6%E9%A6%86&hl=zh-CN>
- ・ 公共图书馆事业机构和人员增加总藏量稳步上升 (文化部), (online), available from
<<http://www.ccnt.gov.cn/whcy/?nav=whcy01&id=tongji32>>
- ・ “九五” 期间全国公共图书馆服务水平略有提高 (文化部), (online), available from
<<http://216.239.57.104/search?q=cache:QkuhPsOOTf0J:www.ccnt.gov.cn/whcy/%3Fnav%3Dwhcy01%26id%3D1009676224+%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E5%85%AC%E5%85%B1%E5%9B%BE%E4%B9%A6%E9%A6%86&hl=zh-CN>>
- ・ 重庆图书馆周末讲座坚持 8 年了, (online), available from
<<http://www.hql.online.sh.cn/View/CNContent.asp?CultureNewsID=21953>>
- ・ 全国公共图书馆经费及设施亟待改善 (文化部), (online), available from
<<http://www.ccnt.gov.cn/whcy/?nav=whcy01&id=1009676351>>
- ・ 中国の地方行政改革, (online), available from
<http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/sp_jimu/156_1/INDEX.HTM#5>
- ・ 第六届全国(公共)图书馆馆长联席会, (online), available from
<<http://www.nlc.gov.cn/disk4/gjgx/gjgx/lianxi/lianxi.htm>>
- ・ 中華人民共和国文化部ウェブサイト, (online), available from <<http://www.ccnt.gov.cn/>>
- ・ 探讨中国公共图书馆 21 世纪议程 (李明华), (online), available from
<<http://www.hangtu.com/tsgx/lmh2.htm>>
- ・ 彭裴章,「图书馆, 情报与文献学」, (online), available from
<<http://www.sinoss.net/commfiles/subject/870.htm>>
- ・ 谢灼华主编,『世界与中国图书馆事业发展趋势』, 武汉大学出版社, 2000 年 10 月
- ・ 强化公共图书馆的社会教育职能, (online), available from <<http://jszb.ceiea.com/zblw/tsg/8565.asp>>
- ・ 中国国家図書館ウェブサイト, (online), available from <<http://www.nlc.gov.cn/>>

- 上海図書館ウェブサイト, (online), available from <<http://www.library.sh.cn/>>
- 关于开展“2004年燕赵少年读书系列活动”的通知, (online), available from <<http://www.helib.net/news/dushu.htm>>
- 2003年中国残疾人事业发展统计公报, (online), available from <<http://big5.xinhuanet.com/gate/big5/www.cdpc.org.cn/shiye/sj-03.htm>>
- 加入WTO后我国图书情报事业面临的机遇与挑战, (online), available from <<http://www.lib.sjtu.edu.cn/chinese/teaching&research/406.html>>
- 唤起文化建设的公共责任, (online), available from <<http://www.libnet.sh.cn/yjdd/list.asp?id=1296>>
- 关于当前图书馆管理和服务中若干问题的思考, (online), available from <<http://www.cslls.org.cn/academic/youthforum2-1-2.htm>>
- 全省各级公共图书馆开展规范服务达标活动, (online), available from <<http://www.helib.net/tongxun/0203/tongxun0203-1.htm>>
- <<http://www.onbook.com.cn/introduction/wenhua.htm>>
- <<http://www.hql.online.sh.cn/View/CNContent.asp?CultureNewsID=22734>>
- <<http://www.hql.online.sh.cn/View/CNContent.asp?CultureNewsID=23160>>
- <<http://www.hangtu.com/tsgx/lmh2.htm>>
- <<http://cache.baidu.com/c?word=%D6%D0%B9%FA%3B%B9%AB%B9%B2%3B%CD%BC%CA%E9%3B%B9%DD%3B%B8%F7%D6%D6%3B%C9%E8%CA%A9&url=http%3A//www%2Eonbook%2Ecom%2Ecn/introduction/wenhua%2Ehtm&b=1&user=baidu>>
- <<http://cache.baidu.com/c?word=%D6%D0%B9%FA%3B%B9%AB%B9%B2%3B%CD%BC%CA%E9%3B%B9%DD%3B%B8%F7%D6%D6%3B%C9%E8%CA%A9&url=http%3A//www%2Eonbook%2Ecom%2Ecn/introduction/wenhua%2Ehtm&b=1&user=baidu>>
- <<http://www.ccnt.gov.cn/whcy/?nav=whcy01>>
- <http://www.lib.bnu.edu.cn/librarian/dongtai/n-3/n3_1.htm>

(康 東元)